

**第6次高松市総合計画（仮称）策定における  
ラウンドテーブル報告書**

**平成26年10月**



## 内容

I	ラウンドテーブルの概要	1
1	目的	1
2	実施概要	1
(1)	開催の概要	1
3	テーマ	2
II	開催結果	3
1	第1回ラウンドテーブル	3
	<人口減少の時代において、持続可能なまちを維持するために Part1>	3
(1)	テーマの説明	3
(2)	開催の様子	4
(3)	参加者の意見	5
(4)	参加者の意見のまとめ	15
2	第2回ラウンドテーブル	16
	<人口減少の時代において、持続可能なまちを維持するために Part2>	16
(1)	テーマの説明	16
(2)	開催の様子	17
(3)	参加者の意見	18
(4)	参加者の意見のまとめ	24
3	第3回ラウンドテーブル	25
	<高松市の魅力を高めるために>	25
(1)	テーマの説明	25
(2)	開催の様子	25
(3)	参加者の意見	27
(4)	参加者の意見のまとめ	40
III	総括	41
	◆参考資料<テーマー覧>	42

## I ラウンドテーブルの概要

### 1 目的

本市では、今後のまちづくりの指針として、平成28年を初年度とする「第6次高松市総合計画（仮称）」の策定に取り組んでいます。第6次高松市総合計画（仮称）の策定に当たり、多様化する市民の声を今後のまちづくりに反映させるため、市民の意見交換の場としてラウンドテーブルを開催しました。

ラウンドテーブルとは、お互いが自由な立場で語り合い、意見交換を行う会議の手法です。各世代間の意見の違いを重視しながら、参加者が自由に活発な意見交換を行えるよう、3回に分けて開催しました。

### 2 実施概要

#### (1) 開催の概要

	日時	会場
第1回	平成26年8月6日（水） 19:00～21:00	高松市役所 13階大会議室
第2回	平成26年8月20日（水） 19:00～21:00	四番丁スクエア
第3回	平成26年9月3日（水） 19:00～21:00	高松市役所 13階大会議室

### 3 テーマ

第6次高松市総合計画（仮称）の策定に当たり、本市にとって重要と考える下記の2つのテーマを設定し、それぞれのテーマに基づいて、実際に意見交換する小テーマを設定しました。

#### ◆ 人口減少の時代において持続可能なまちを維持するために

- 子育てしやすいまちづくり
- 住み慣れた地域で安全に安心して暮らせるまちづくり
- 若者が住みたいまちづくり

#### ◆ 高松の魅力を高めるために

- 高松の魅力を生かしたまちづくり

## II 開催結果

### 1 第1回ラウンドテーブル

＜人口減少の時代において、持続可能なまちを維持するために Part1＞

#### (1) テーマの説明

第1回のラウンドテーブルでは、＜人口減少の時代において、持続可能なまちを維持するために＞というテーマに基づいて、下記の2つの小テーマを設定し意見交換を行いました。

ラウンドテーブルでの意見は、高松市第6次総合計画（仮称）の、主に子育て支援や教育の施策分野（①子育てしやすいまちづくり）、産業・雇用分野や都市基盤整備の施策分野（②若者が住みたいまちづくり）における施策の方針や事業展開の策定に際して、活用することを目的としています。

- ①子育てしやすいまちづくり
- ②若者が住みたいまちづくり

当日は、①子育てしやすいまちづくりについては、主に40歳未満のグループと40歳以上のグループ、②若者が住みたいまちづくりについては、主に大学生のグループで意見交換を行いました。テーマごとに3段階の話題を設定し、途中で各グループの意見を全体で共有しながら、それぞれの世代の考え方を踏まえて意見交換を行いました。

	意見交換の内容		
	40歳未満のグループ	40歳以上のグループ	大学生のグループ
	①子育てしやすいまちづくり		②若者が住みたいまちづくり
第1ラウンド前半 (15分)	子育て環境について高松市の良いところ		若者が感じている高松市の良いところ
第1ラウンド後半 (15分)	高松市の子育て環境をより良くするために必要な条件		若者が住み続けるために必要な条件
中間シェアリング	各グループの意見を全体で共有		
第2ラウンド (10分)	若者定住の観点も含めた高松市の子育て環境をより良くするための方策		子育て環境も含めた若者が住み続けたいまちにするための方策
シェアリング	各グループの意見を全体で共有		

## (2) 開催の様子

第1回のラウンドテーブルでは、意見交換の前に、今回のラウンドテーブルの趣旨の説明や、市長の挨拶、本市の現状について参加者へ説明した後、各グループで意見交換を行いました。

### <グループの状況>

グループ	参加人数
大学生	12人
40歳未満	10人
40歳以上	12人



### (3) 参加者の意見

#### ① 子育てしやすいまちづくり

##### <第1ラウンド前半 ～高松市の子育て環境の良いところ～>

第1ラウンド前半では、高松市の子育て環境の良いところについて、40歳未満のグループ、40歳以上のグループで意見交換を行いました。

主な意見として「自然環境に恵まれている」「教育水準が高い」「保育環境が充実している」「地域コミュニティが充実している」という意見が出ました。

以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

##### <第1ラウンド前半> 子育て環境について高松市の良いところ

###### ■参加者の意見（40歳未満のグループ）

###### 【自然・公園等の環境】

- ・島があり、空港もあるため、子どもの遊び場になる。
- ・街としてコンパクト。自然も多い。
- ・公園もある。整備されている。
- ・子どもが遊べる場が多い。

###### 【地域の子育て環境】

- ・地域の見守る力が強い。
- ・見守り活動が盛んである。

###### 【幼稚園や保育施設】

- ・1人の先生対して少人数の子供を見てもらえる。目が届きやすい。
- ・小さいころから子供を預けられるところがある。
- ・幼稚園の教育内容が充実している。
- ・産休（育休）を取得した女性が、予定とおりに職場に復帰することが多い。子どもの預け先に困らない。
- ・（ここ数年で）施設数が充実し、改善された。

###### ■参加者の意見（40歳以上のグループ）

###### 【自然・公園等の環境】

- ・海や山が近い。

###### 【地域の子育て環境】

- ・地域コミュニティがしっかりしている。
- ・夏祭りをしているところは、準備は大変だが、結びつきが強い。
- ・PTAが子ども会を吸収し、2つの会に出なければいけない状況を一つに統合し、組織力を上げた。
- ・お年寄りが、子ども達と一緒に掃除をしたり、裁縫を一緒にしたりする活動を



＜第1ラウンド前半＞ 子育て環境について高松市の良いところ

している。

【幼稚園や保育施設等】

- ・1クラスの人数がほどよい。地域に公立の幼稚園がある。(県外は私立で高額である。)

【その他】

- ・教育水準が高い。(公立高校のレベルが高い。進路、バラエティのある科が多い。)
- ・合併を経験しているが、全体的に平坦で、(旧町の)行政の境がない。
- ・うどん文化があり、外食費が安く済む。

＜第1ラウンド後半 ～高松市の子育て環境をより良くするために必要な条件～＞

第1ラウンド後半では、前半での高松市の子育て環境の良いところについての意見交換の結果を踏まえて、高松市の子育て環境をよりよくするために必要な条件について意見交換を行いました。

主な意見として、「子どもの遊び場(公園)の充実」「保育環境の充実」「高齢者の活用」という意見が出ました。

以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

＜第1ラウンド後半＞ 高松市の子育て環境をより良くするために必要な条件

■参加者の意見(40歳未満のグループ)

【自然・公園等の環境】

- ・子ども同士で集まれる遊べる場所がほしい。
- ・公園の遊具を増やす。ボール遊びが駄目・火を使うのは駄目・飛ぶものは駄目と規制が多すぎるため、緩和する必要がある。
- ・公園には子どもが集まらない場所になっている印象がある。
- ・公園に犬のフンがある。
- ・どこにどのような遊具や施設のある公園があるかわかりにくい。公園の情報を上手く発信してほしい。

【幼稚園や保育施設等】

- ・学童保育を充実させる必要がある。
- ・子どもを安心して預けられる施設があれば良い。
- ・(病気の子どもを)預ける施設がほしい。

【その他：不審者対策、学校教育】

- ・不審者対策の充実(ヨイチメール)が必要ではないか。
- ・小学校の教員の数が少ない。(複数担任が良かった。)

<第1ラウンド後半> 高松市の子育て環境をより良くするために必要な条件

■参加者の意見（40歳以上のグループ）

【幼稚園や保育施設等】

- ・学童保育も含めて、子どもを守っていける環境を整える。例えば、学童保育については、対象年齢の引き上げなど、安心して仕事に行ける環境づくりが必要である。
- ・一人親世帯への支援が必要である。塾に行かせたりした際に、親が迎えに来てくれるまで預かってくれるようなシステムは出来ないか。

【地域の子育て環境（高齢者の参加）】

- ・PTAの活動が終わった後（子どもが成長した後）に、地域コミュニティに移り、活性化していかなければならないのではないか。（そのためのリーダー育成、リーダーシップの意識啓発が必要）
- ・リタイアした方々が学校から帰宅している子どもを見守っているが、それを寺子屋のようなものに発展させられないか。そこで、子育てに悩んでいる親とのマッチングをすることも考えられる。リタイアした方は、子どものお世話をしたがつている。これは、生きがいづくりや認知症予防にも繋がる。
- ・お年寄り登録制度により、子育ての悩み等をここに行けば相談できるという仕組みをつくる。

【その他：医療費制度・家庭教育・学校教育・地域福祉】

- ・現在6歳未満の未就学児童は医療費無料だが、それを拡充してほしい。
- ・子どもをグローバル社会に適応できる人材に育てる。英語力の強化。一方で、正しい日本が話せるように育てる。
- ・子どもだけではなく、親に対する教育も必要である。社会が便利になり過ぎて、家族で過ごす時間が少なくなっているのではないか。（例、正月は店が休んでいるので、以前は家族で過ごす状況があった。）
- ・民生委員の仕事の精査や仕分けが必要ではないか。現状では多忙すぎるし、以前より業務が多様になっている。

## ＜第2ラウンド＞

### ～若者定住の観点も含めた高松市の子育て環境をより良くする方策～

第2ラウンドでは、第1ラウンドにおける大学生グループの意見交換の結果も踏まえて、若者定住の観点も含めて高松市をより子育てしやすいまちにするためにはどうしたら良いのかについて意見交換を行いました。

主な意見としては、「子育て環境の整備」「交通安全の強化」「保育園の充実」「地域コミュニティの強化」「中心市街地の活性化」「高齢者の活躍」という意見が出ました。

以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

#### ＜第2ラウンド＞ 若者定住の観点も含めた高松市の子育て環境をより良くする方策

##### ■参加者の意見（40歳未満のグループ）

###### 【幼稚園や保育施設等】

- ・子どもを預けることができる地域コミュニティをつくる。
- ・病時にも子どもを安心して預けられる体制を整える。
- ・安心して預けられる託児所の増加も必要である。（行政が実施すること）
- ・安心して子どもが遊ぶことの出来る環境を多くつくる。（コミュニティセンター、小中学校の校庭など：行政が実施すること）

###### 【支援金】

- ・医療費助成の制度は中学生卒業時までであれば良いと思う。
- ・子育て支援金を渡すなど金銭的な補助も必要ではないか。

###### 【イベント・交流】

- ・若者と子どもが気軽に交流できる場所があれば良いと思う。
- ・e-とびあ・かがわ、大学などの夏のイベントで子どもも一緒に参加できるような機会を多くするとともに、積極的に周知を行う。
- ・地域、地区毎に地域の人との交流の場をつくる。
- ・（市民主体で）夜のまちを大勢で楽しめるイベントを企画してはどうか。
- ・若者のショッピングニーズにあう商店街や日用品を揃える商店街とのバランス等、商店街の位置づけを検討すべきではないか。
- ・地域コミュニティの活動がもっと分かるように広報の仕方を考える。
- ・市民が地域イベント（祭りなど）へ参加し、盛り上げることが必要である。
- ・高松市でも国際交流が容易にできる場づくりが必要である。
- ・留学生、観光客も多いので積極的に交流し、視野も広げられる機会を創出する。

###### 【雇用】

- ・地元企業を育成するための仕組みをつくる。
- ・「良い職場（働きやすい、ワークライフバランス）」をつくるための仕組みをつくる。
- ・地域に貢献する企業づくりを進める。

＜第2ラウンド＞ 若者定住の観点も含めた高松市の子育て環境をより良くする方策

- ・東京・大阪本社の支社に対して地元採用を働きかけ、その代わりに法人税を優遇するなど行政からの補助があっても良いのではないか。
- ・そもそも、雇用の場を増やすことが必要である。
- ・行政・市民共に「働く場」をどう創るか、引き寄せるかを考えるべきである。
- ・留学生の地元企業への就職支援策がほしい。(行政が補助をするなど)
- ・就職できる企業を誘致する。
- ・行政が新卒社員の雇用をした企業に補助金を出す。

【余暇】

- ・香川県で就職した若者が、社内で「サークル」を作って繋がりを深めたり(学校のサークルのように)、趣味を持ったりすることで、人生を楽しく送れるようにする。
- ・働ける場と楽しめる場のバランスを持った行政からの働きかけが必要ではないか。

【自然・公園等の環境】

- ・アミューズメントパークを造る。
- ・公園に遊具をたくさん設置する。

【交通】

- ・どの場所にも行きやすい距離なのでアクセスを増やし、交通カードも共通にするなど利便性を高める。
- ・車のいない生活のために公共交通の充実を図る。

【その他】

- ・今日のラウンドテーブルの様な、行政と市民、市民同士の意見交換の場をつくるべき。
- ・行政・市民双方から強力なリーダーの育成(おもしろい人間、ユニークな発想)を行う。また、そのような人が出やすい土壌作りを行う。
- ・若者と子育て中の家庭との交流を図る。(市民は行動する。行政は仕掛けをつくる。)
- ・地域の自然を生かして、交流施設・教育施設をつくる。
- ・市民が夜のまちを安全に楽しめるように、見回り活動を強化する。
- ・障がい者の支援金の充実により、地域での生活を送れるようにする。

■参加者の意見(40歳以上のグループ)

【子育て】

- ・高松での生活が気に入って、子育て(幼児、小学生)したくなれば、そのまま定住するのではないか。
- ・安心して子育てするためには職(雇用の場)があること。子どもを預けられること。
- ・女性の就業率(労働力)を上げる必要がある。

<第2ラウンド> 若者定住の観点も含めた高松市の子育て環境をより良くする方策

【田舎暮らし】

- ・瀬戸内海の島々を生かした子育て。例えば古民家（空家）に泊まれる等の事業化も一案である。
- ・農業にも触れながら生活できるなど、都会の生活にないバランスの良い生活を構築、PRする。
- ・田舎にいるからこそそのやすらぎ。スローライフの推進を行う。

【まち・地域コミュニティ】

- ・お年寄りの力を生かせる場づくりが必要である。
- ・公共交通機関をもっと頻繁に利用できるような時間、ダイヤにする。駅を増やす。
- ・ゴミのない美しいまちづくりを進める。
- ・ゴミの分別が細かいため、焼却炉をパワーアップし、もう少し分別の種類を少なくする。
- ・魅力あるまちづくりとして、例えば、病院を核にしたまちづくりを行う。
- ・高松ブランドを作ったり、農業の発展を行ったりするなど、創造性あるまちづくりを進める。
- ・職住一致のコンパクトシティを目指す。
- ・国際的なコミュニティを作り、生活の中で国際力をつける。
- ・駅、町をもっと元気にしてほしい。
- ・交流人口を増やす仕組みづくりが必要である。
- ・地域愛が芽生えるスポーツチームを育成する。（理想はプロ野球）
- ・さらに、たくさんの方が参加できる地域コミュニティづくりを行う。
- ・ひとつの地域コミュニティにひとつの特色を与え、それぞれが切磋琢磨できるような仕組みをつくる。

【雇用、産業創造】

- ・Uターンできる環境をつくる。
- ・観光の価値を生む「食の世界」をつくる。
- ・魅力ある仕事（産業）を創出する。
- ・一次産業で生活ができる仕組みづくり
- ・一次産業を盛り上げ、三次産業につなげ、高松ブランドを上げる。

【施設】

- ・高松城の再建など新しいシンボルが必要である。
- ・便利な場所に球場を造ってください。
- ・高松駅をどうにかしてほしい。もっとワクワクする感じのものがほしい。
- ・レジャー施設が少ないので…。サンポートに水族館があったら良い。

## ②若者が住みたいまちづくり

### <第1ラウンド前半 ~若者が感じている高松市の良いところ~>

第1ラウンド前半では、若者の実感として高松市のどんなところが良いかについて、大学生のグループで意見交換を行いました。

主な意見としては、「自然環境に恵まれている」「商業施設が充実している」「交通の便がよい」という意見が出ました。

以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

#### <第1ラウンド前半> 若者が感じている高松市の良いところ

##### ■参加者の意見（大学生のグループ）

###### 【自然環境】

- ・ 過ごしやすい気候
- ・ 豊かな自然（海）
- ・ 栗林公園

###### 【商業施設】

- ・ 郊外に商業施設がたくさんある。
- ・ 商店街が充実（丸亀町をはじめとしてアーケードが賑わっている。）

###### 【交通】

- ・ 平坦な土地のため、自転車が乗りやすい。
- ・ レンタサイクルが便利
- ・ 交通機関の利便性が高い。

###### 【その他】

- ・ アーケードの整備、自転車道路の整備、街中での公共的な施設の利用しやすさなど街が整備されている。
- ・ 公共施設が集約している。
- ・ 大学が多く立地しており留学生が多く、国際性がある。
- ・ 安くて美味しいうどんの店が多い。

### <第1ラウンド後半 ～若者が住み続けるために必要な条件～>

第1ラウンド後半では、前半での若者が感じている高松市の良いところについての意見交換の結果を踏まえて、若者が住み続けるために必要な条件について意見交換を行いました。

主な意見としては、「交通の利便性」「商業施設の集約」「雇用の安定」という意見が出ました。

以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

#### <第1ラウンド後半> 若者が住み続けるために必要な条件

##### ■参加者の意見（大学生のグループ）

###### 【商業施設】

- ・商業施設が集約していること（現状は魅力的な店が郊外に増えてしまっている。）

###### 【交通】

- ・多様な交通手段があること（特にバスがあれば良い。）
- ・バスの本数やルート of 拡大による交通サービスレベルの向上
- ・郊外へのアクセスが良い。

###### 【安全】

- ・交通マナーが良いこと
- ・夜でも安心して外出できること

###### 【まちづくり】

- ・郊外も施設等が充実していること
- ・地域の良さも残すこと
- ・みんなが知っている魅力があること

###### 【雇用】

- ・働く場所があること

## ＜第2ラウンド＞

～子育て環境も含めた若者が住みたいまちにするための方策～>

第2ラウンドでは、第1ラウンドにおける40歳未満のグループ、40歳以上のグループの意見交換の結果も踏まえて、子育て環境の観点も含めて若者が住みたいまちにするためにはどうしたら良いのかについて意見交換を行いました。

主な意見としては、「子育て環境の整備」「田舎を活用した暮らしの推進」「地域コミュニティの強化」「雇用・産業の創出」「娯楽施設の充実」「交通の利便性向上」という意見が出ました。

以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

### ＜第2ラウンド＞ 子育て環境も含めた若者が住みたいまちにするための方策

#### ■参加者の意見（大学生のグループ）

##### 【男性の子育て参加】

- ・男の人が子どもと一緒に参加できるような催しや地域コミュニティ活動をつくる。
- ・女性が子育て、介護をするという意識を変える。
- ・女性も男性も安心して子育てができるようにする。

##### 【交通安全】

- ・市民に呼びかけて意識の向上を図る。
- ・子育ての過程で交通安全の教育を強化する。  
(小中学校で交通マナー教室を積極的に取り入れる。)
- ・交通違反の罰則を強化する。
- ・外灯を増やして、交通事故を減らす。

##### 【幼稚園や保育施設等】

- ・地方に住みたがっている人は増えている × 高松市独自の方策（医療費・学費の援助）⇒人口増＝子どもを産む
- ・保育園の場所（施設・施設数）の充実（働く親にとって便利な場所であり、子どもの教育にも適した。)
- ・保育士の待遇の向上
- ・保育園・幼稚園を増やすことで、雇用を創出する。

##### 【地域コミュニティ】

- ・地域コミュニティに若者の力をもっと取り入れる。
- ・若者も含めたイベントがあれば地域の魅力を感じることができると思う。
- ・合併後になくなった祭り等の地域が集うイベントを、行政が復活させ、自治会も協力する。

##### 【中心市街地】

- ・駅の周辺をもっと便利にしてほしい。



<第2ラウンド> 子育て環境も含めた若者が住み続けたいまちにするための方策

- ・市中心街の商業施設をもっと充実してほしい。
- ・商店街の活性化：(商店街ではないところに)若者目線の店が多く、新しく開発できそうなところ(三越近くや田町)は意外とお年寄りが多い。(若者向の店が少ない。)
- ・公共施設・商業施設のコンパクト化と郊外の交通網の充実が必要である。
- ・郊外と中心部のアクセスを向上させる(交通サービスレベルの向上)、運行本数を増やす。

【その他：高齢者対策、公共交通、雇用など】

- ・元気な高齢者が働ける環境をつくる。家族で早期の介護をさせる。行政で退職年齢を引き上げる。
- ・公共サービスを向上させる。(公共交通機関を充実させる)
- ・魅力のある働く場所をもっと増やす。
- ・魅力を示すことと住み方、楽しみ方を行政が提案する。

#### (4) 参加者の意見のまとめ

##### 子育てしやすいまちづくり

各グループの意見の概要及び特徴は以下のとおりです。

###### <各世代共通>

・保育施設など、子どもを預ける環境の充実や地域コミュニティの充実・活性化に関しては、いずれの世代においても活発な意見交換が行われ、関心が高いことが分かりました。

###### <40歳未満グループ>

・子どもの遊び場(公園)の充実についての意見が出ていました。これは、若年層の子育てに子どもの遊び場(公園)が強く関連しているためであると思われる。

###### <40歳以上グループ>

・高齢者の子育て参加に関する意見が出ていました。これは、子育てが終わった世代の視点から出された意見であると思われる。

###### <大学生グループ(子育て環境も含めた若者が住み続けたいまちにするための方策)>

・男性の子育て参加に関する意見が出ていました。これは、男女共同参画が進む社会の変化に対応した若者世代の子育てに関する視点から出された意見であると思われる。

##### 若者が住みたいまちづくり

各グループの意見の概要及び特徴は以下のとおりです。

###### <各世代共通>

・中心市街地の活性化や利便性の向上、地域コミュニティの充実・活性化に関しては、いずれの世代においても活発な意見交換が行われ、関心が高いことが分かりました。

###### <大学生グループ>

・快適な自転車利用についての意見が出ていました。これは、若者世代にとって自転車は重要な交通手段となっているためであると思われる。

###### <40歳未満、40歳以上のグループ(若者定住の観点も含めた高松市の子育て環境をより良くする方策)>

・雇用の創出など就業環境の向上に関する意見が出ていました。これは既に就業している世代の視点から、就業環境の向上が若者の定住に欠かせない要素であると感じているためであると思われる。

## 2 第2回ラウンドテーブル

＜人口減少の時代において、持続可能なまちを維持するために Part2＞

### (1) テーマの説明

第2回のラウンドテーブルでは、第1回に引き続き人口減少の時代において、持続可能なまちを維持するためにこのテーマに基づいて、小テーマ①住み慣れた地域で安全に安心して暮らせるまちづくりについて意見交換を行いました。

意見交換の内容は、主に高松市第6次総合計画（仮称）の危機管理、防犯、福祉施策等の分野における施策の方針や事業展開の策定に際して、活用することを目的としています。

当日は、テーマごとに3段階の話題を設定し、途中で各グループの意見を全体で共有しながら、それぞれの世代の考え方を踏まえて意見交換を行いました。

	意見交換の内容	
	40歳未満のグループ	40歳以上のグループ
第1ラウンド前半 (10分)	安全に安心して暮らせる理想のまちの条件	
第1ラウンド後半 (20分)	安全、安心な暮らしに当たっての高松市の課題・問題点	
中間シェアリング	各グループの意見を全体で共有	
第2ラウンド (15分)	高松市をより安全、安心に暮らせるまちにするための方策	
	交通マナー向上のための方策	地域におけるリーダーの養成のための方策
シェアリング	各グループの意見を全体で共有	

## (2) 開催の様子

第2回のラウンドテーブルでも、第1回と同様に各グループで意見交換を行い、最後にグループごとのまとめを作成しました。

<グループの状況>

グループ	参加人数
40歳未満	12人
40歳以上	9人



### (3) 参加者の意見

#### 住み慣れた地域で安全に安心して暮らせるまちづくり

##### <第1ラウンド前半 ～安全に安心して暮らせる理想のまちとは～>

第1ラウンド前半では、安全に安心して暮らせる理想のまちとはどんなまちなのかについて意見交換を行いました。

主な意見としては、「豊かなまち」「美化環境が良いまち」「犯罪や事故の少ないまち」「災害への備えがあるまち」「地域住民の良好な関係が築けるまち」という意見が出ました。

以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

##### <第1ラウンド前半> 安全に安心して暮らせる理想のまちとは

###### ■参加者の意見（40歳未満のグループ）

###### 【防災】

- ・高松市は地震が少ないため避難所に対する意識が低く、防災に関する看板がない。
- ・行政から積極的に、土地が低く、危ない地域であるという情報を教えてほしい。  
→防災に関する意識が高く、訓練が充実したまち

###### 【防犯】

- ・犯罪が少ないまち
- ・警察がいない。  
→犯罪が少ないまち

###### 【交通安全】

- ・交通事故が少なく、マナーが良いまち

###### 【健康】

- ・車の移動が多いため、糖尿病の発症率がワースト1位である。  
→健康に暮らせるまち
- ・犬の殺処分率が多い。野良犬が多い。  
→健康に暮らせるまち

###### 【地域コミュニティ】

- ・挨拶、声かけ、車パトロールなどの見守りがあるまち（地域の人）
- ・隣、近所の関わりがあるまち（モデル地域があれば良い。）

###### 【その他】

- ・外国人にとって手続きが多い。英語・中国語メニューや看板が少ない。  
→外国人にとって安心して暮らせるまち

■参加者の意見（40歳以上のグループ）

【地域コミュニティ】

- ・自治会、PTAなど個々の動きがキャッチアップされ、連携がとれているまち
- ・自治会加入・未加入に関わらず、地域に住んでいるという自治会を超えたことでのつながり→顔の見えるまち
- ・まちづくり、地域づくりのキーパーソンとなる、良いリーダーを育てるまち

【その他】

- ・豊かな（医療・職業が充実）まち
- ・マナー（ごみが少ない。ペットのフンが少ない。）が保たれたまち

＜第1ラウンド後半 ～安全、安心な暮らしに当たっての高松市の課題・問題点～＞

次に、第1ラウンド後半では、安全・安心な暮らしに当たっての高松市の課題や問題点は何かについて意見交換を行いました。

主な意見としては、「地域におけるリーダーの育成」「地域コミュニティへの参加」「防災対策」「交通マナーの向上」という意見が出ました。

以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

＜第1ラウンド後半＞ 安全、安心な暮らしに当たっての高松市の課題・問題点

■参加者の意見（40歳未満のグループ）

【防災】

- ・「民間の建物」の耐震化をどう進めるか。
- ・池より低い土地の小学校・中学校が避難場所になっているため、見直しや本当に安全であるかシュミレーションしてほしい。
- ・ハザードマップを配布するだけではなく、目がつく場所にあればよい。
- ・夜道の暗がり対策（暗いところは、本当に暗い。）
- ・廃屋の増加
- ・空き家・ごみ屋敷の対策（都内に比べたら少ないと思う。）
- ・大きな災害も無く危機意識がない。
- ・安全教育
- ・課題 防犯 防災活動、イベントの周知

【交通安全】

- ・自動車・自転車の運転者のマナーの向上
- ・自転車マナーが悪い。
- ・自転車で、夜ライトも点けずに走っている人が非常に多い。
- ・子供のヘルメット着用率のUP
- ・車や自転車の運転が荒い。

＜第1ラウンド後半＞ 安全、安心な暮らしに当たっての高松市の課題・問題点

・交通マナーアップ

【地域コミュニティ】

- ・隣近所の人のことを知らない。(隣は何をする人か。)
  - ・地域(近所)に住む高齢者、障がい者、子育て家庭を知らない。
  - ・「周知の方法」「住民意識の統一化」をどうすればできるのか。
  - ・自分の地域のことを知らない。
  - ・地域コミュニティは、高齢者比重が非常に高いイメージ
  - ・例えば「地域コミュニティ協議会」のことを、知らない。
  - ・地域コミュニティの地区分けがおかしい。
  - ・コミセンの役割をもっと地域の人を知ったらいい。
  - ・各種団体を運営している人が、重複している状態である。
  - ・自治会加入を新しい方に受け入れる体制づくり
  - ・小学校のPTAを活用して、地域との関わりを持てたら良い。
  - ・田舎の地域では、昔は隣近所の関わりが強かったが、最近ではあまり感じない。  
(田舎に住みたいと思う人が少なくなっているのが原因か?)
  - ・外国語の表記を増加していく。(家族で来てもらっても、地域に早く慣れることができる。)
  - ・若者の集まりやすいイベントの開催で、コミュニケーションを多く、深くできる。(友達の多い町には暮らしやすい。)(転勤の方や外国人)
- 【その他：医療、高齢者対策、不審者対策など】
- ・医者不足・医療の更なる充実
  - ・高齢化対策
  - ・不審者対策
  - ・未成年が夜遅くまで街中での取り締まり・声かけ
  - ・治安(外国人)
  - ・宇高航路がなくなる。
  - ・犬や猫を捨てる前に予防する。(飼えないペットを預けられる施設がない。)

■参加者の意見(40歳以上のグループ)

【地域コミュニティ】

- ・自分の地域の現状把握(仕事が忙しく、地域の特色も知らない。若い人の無関心→興味を持ってもらうにはどうするのか)→それをどうしていくのか。
- ・地域でのリーダー育成の重要性
- ・広報紙の配布もままならない状態
- ・広報紙が配布されないため、補助金等行政の支援策を認知していない。

＜第1ラウンド後半＞ 安全、安心な暮らしに当たっての高松市の課題・問題点

- ・地域活動で1人がいくつもの役割を担う。メンバーが固定化されてしまう。
  - ・地域活動に絶対に来ない人は来ない。まずは「いいかな・・・」という人を引き込む仕組みが必要
  - ・マンションは自治会に加入していない、補助金の問題もあり。
  - ・中高年（45～55才）の人がいない。
- 【その他：雇用、高齢者対策、防災など】
- ・失業者、災害時の支援、独居老人、自殺、孤独死、認知症高齢者、民生委員、配食サービス、学校、公園周辺の安全確保などの仕組みづくりが必要
  - ・エレベーターがない公共施設がある。

＜第2ラウンド ～高松市をより安全、安心に暮らせるまちにするための方策～＞

第2ラウンドでは、第1ラウンドで出された課題や問題点の中から、40歳未満のグループは、「交通マナー向上」を、40歳以上のグループは「地域におけるリーダーの育成」を選択し、これらの課題を解決するためにはどうしたらよいかについて意見交換を行いました。

交通マナーの向上のための方策としては、主に、市民でできることとして「地域における活動」「民間企業における活動」、行政の望むこととして「横断歩道など設備の充実」「取締りの強化」、市民と行政で協働することとして「マナー教室等の啓発運動」などの意見が出ました。

地域におけるリーダーの育成のための方策としては、主に、きめ細やかな情報共有や、地域における当事者意識を持つための仕組みづくりについての意見が出ました。以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

＜第2ラウンド＞ 交通マナー向上のための方策（40歳未満のグループ）

■参加者の意見

＜自分たちにできること＞

【地域コミュニティ】

- ・地域コミュニティ単位で（子ども会や青年会など）マナー講座を開く。
- ・コミュニティセンターの内容をもっと広げる。
- ・自治会の加入への声かけ
- ・地域コミュニティ単位で死角をなくす。行政では把握しきれないところもある。

【企業参加】

- ・ノーマイカーデーをつくる。（企業における取組）
- ・企業のゴールド免許所有者への評価制度導入（企業が実施する。）



<第2ラウンド> 交通マナー向上のための方策（40歳未満のグループ）

【その他】

- ・バスの利用率を上げる。
- ・マナーアップ運転などの積極参加
- ・ながらスマホ、飲酒運転禁止

<行政にしてもらいたいこと>

【信号などの設備整備】

- ・高齢者が亡くなることが多い。→信号、横断歩道まで行くのがしんどい。  
→道路を横断する。→信号・横断歩道を増やす。
- ・大きなとおりのガードレール増加
- ・市道の歩道の整備
- ・市街地の街頭を増やせばよい。

【交通安全啓発運動】

- ・老人の横断歩道の利用を促す。
- ・マナーを守る意識を高める講座等を開く。（学校では交通マナーについての説明会がある。）
- ・小・中学校で、交通マナー教室を積極的に行う。（実際に発生した事故の事例を挙げて、危機感が感じられるようなもの）
- ・交通事故について口コミを広める。看板などの設置

【取締の強化】

- ・無灯火の罰金化
- ・飲酒運転など車・自転車の事故は行政からも企業などに厳重注意を行う。
- ・取締りの継続的な強化

【その他】

- ・超将来的には「市の中心部には車を入れない。」公共交通の更なる発展（電車とバスの中間のような乗り物）
- ・子供のヘルメット着用をUPさせる為には補助などがあればよい。
- ・どこで事故が多いか具体的な場所を知らない。（地面が青く塗られているところが多いと聞いたが。）

<市民・行政で協力して実施すること>

【交通安全啓発運動】

- ・自転車運転を始めて行う子供達への講習会実施 地域、学校
- ・交通マナー啓発運動
- ・小・中でのマナー講座→先生が一方向的にしゃべる。→結構多くの人が眠っている

<第2ラウンド> 交通マナー向上のための方策（40歳未満のグループ）

る。→体験型にするのも一案である。

- ・事故対応の徹底教育
- ・子供達の交通安全教室だけでなく、大人の方に向けての交通安全教室開催
- ・交通ルール、マナーの徹底を行う。
- ・大人（社会人）の交通マナー教室を開催する。

<第2ラウンド> 地域におけるリーダーの養成のための方策（40歳以上のグループ）

■参加者の意見

- ・リーダーがいるかどうか調査
- ・情報共有が必要である。このままでは末端に伝わらない。
- ・地域の企業に協賛してもらい、市から何か恩恵をバックする仕組みが必要
- ・小さな班単位のグループをつくる。
- ・そのグループを結びつける仕組みづくり
- ・地域単位でコンテスト、競わせるような仕組みづくり（帰属意識の向上を図る。）
- ・地域ごとにお互いの組織の特徴を知らない、予算も分からない。分からないままでは意見が出せない。データ、情報の共有が出来ていない。
- ・きっかけ作りが必要である。例えば、きれいな街にしたいということで、フンの回収を積極的に行う。（木太町では、犬の袋を配布している。）
- ・テーマの提供の提供を行い、何ができるか考えてもらう。やらされ感はだめ。（地域で意思決定するまでの）ストーリーが大切
- ・持ち回りで役を回し、活動の理解に努める。

#### (4) 参加者の意見のまとめ

##### 住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり

各グループの意見の概要及び特徴は以下のとおりです。

###### <各世代共通>

・地域コミュニティの充実・活性化に関しては、いずれの世代においても活発な意見交換が行われ、関心が高いことが分かりました。

###### <40歳未満グループ>

・防犯や防災、交通マナーの向上に関する意見が出ていました。これは、小さい子どもの子育て世代の視点として意見が出されたものと思われます。

###### <40歳以上グループ>

・地域コミュニティの活性化や地域におけるリーダー養成の必要性、地域における当事者意識を持つための仕組みづくりについて意見が出ていました。これは、長い期間、地域に根ざして生活している市民としての視点から意見が出されたものと思われます。また、この世代は積極的に地域活動に参加している方が多く、自らの経験を通じて比較的年齢層の高い方の地域参加だけでなく、幅広い世代に参加してもらいたいという意識の表れであると推察できます。

### 3 第3回ラウンドテーブル

#### <高松市の魅力を高めるために>

#### (1) テーマの説明

第3回のラウンドテーブルでは、第1回、第2回での結果を踏まえて、<高松の魅力を生かしたまちづくり>について意見交換を行いました。

意見交換の内容は、高松市第6次総合計画（仮称）における「将来都市像」の設定や施策目標及び「産業・観光施策」の施策方針や事業展開を策定に活用することを目的としています。

当日は、テーマごとに3段階の話題を設定し、途中で各グループの意見を全体で共有しながら、それぞれの世代の考え方を踏まえて意見交換を行いました。

	意見交換の内容		
	大学生のグループ	40歳未満のグループ	40歳以上のグループ
第1ラウンド (10分)	高松市の魅力		
第2ラウンド (12分)	高松市の魅力を高めるための方策		
中間シェアリング	各グループの意見を全体で共有		
第3ラウンド (12分)	高松市のまちづくりのキャッチコピー・キーワード		
シェアリング	各グループの意見を全体で共有		

#### (2) 開催の様子

第3回のラウンドテーブルでも、各グループで意見交換を行い、最後にグループごとのまとめを作成しました。

#### <グループの状況>

グループ	参加人数
大学生 A	4人
大学生 B	5人
40歳未満 A	5人
40歳未満 B	5人
40歳以上 A	5人
40歳以上 B	4人



### (3) 参加者の意見

#### 高松の魅力を生かしたまちづくり

##### <第1ラウンド ~高松の魅力~>

第1ラウンドでは、高松にはどんな魅力があるのかについて意見交換を行いました。

以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

##### <第1ラウンド> 高松の魅力

###### ■参加者の意見（大学生のグループA）

###### 【自然・公園など】

- ・海が近い。
- ・島がある。島が近い。
- ・峰山公園
- ・栗林公園
- ・公渕公園
- ・遍路
- ・災害が少ない。

###### 【特産品】

- ・うどん
- ・骨付き鳥
- ・オリーブ牛
- ・お土産にできるお菓子が多い。

###### 【ゆるきゃら】

- ・ゆるキャラ
- ・うどん脳
- ・ことちゃん

###### 【交通】

- ・レンタサイクル
- ・自転車道
- ・会場までのアクセスが良い。

###### 【その他】

- ・要潤

###### ■参加者の意見（大学生のグループB）

###### 【自然・公園など】

- ・気候が良い。
- ・栗林公園

###### 【特産品】

- ・うどん
- ・希少糖
- ・骨付きどり
- ・オリーブ

###### 【安全】

- ・都会に比べて犯罪が少ない。

###### 【ゆるきゃら】

- ・PRできるキャラが多い。

###### 【人柄】

- ・おだやか
- ・のんびりしている。
- ・真面目、賢い

###### 【その他】

- ・瀬戸内国際芸術祭
- ・土地が安い。

<第1ラウンド> 高松の魅力

■参加者の意見（40歳未満のグループA）

【自然・公園など】

- ・ 晴れの日が多い。
- ・ ゴルフ場が多い。
- ・ 公園や緑が多い。
- ・ 災害が少ない。

【特産品】

- ・ ふみや(ラードを使ったお好み焼)
- ・ うどん屋が多い。

【交通】

- ・ 交通が便利(特にまちなか)

【地域コミュニティ】

- ・ 地域活動への関心が高い。

【その他】

- ・ 山も海も都市も田舎も近くまとまっていて便利
- ・ 土地がフラット
- ・ 自転車で走りやすい。
- ・ 転勤者の入れ替わりがある。
- ・ 玄関口の高松駅がステキ
- ・ 物価が安い。

■参加者の意見（40歳未満のグループB）

【スポーツ】

- ・ マリンスポーツ(ウェイクボード、ヨット、ウインドサーフィン)
- ・ トライアスロン

【自然】

- ・ 夕日がきれい。
- ・ 海が近い。
- ・ 屋島
- ・ 塩江(温泉)

【文化】

- ・ 漆器
- ・ 庵治石
- ・ 盆栽

【災害】

- ・ 地震が少ない。
- ・ 台風が少ない。

【交通】

- ・ 船(意外と便利)
- ・ ことでん(マニアもいる。)
- ・ 空路も充実
- ・ 東京へのアクセスが良い。

【子育て環境】

- ・ 待機児童ゼロ
- ・ 学力上位

【地形】

- ・ 平坦な土地
- ・ 道路が広くてきれい。
- ・ 車での移動が楽

【食べ物】

- ・ しょうゆ豆
- ・ いいだこ
- ・ うどん
- ・ 鱈
- ・ オリーブ牛

【まち】

- ・ コンパクトなまち
- ・ 丸亀町、一番街
- ・ ショッピングセンターが多い。
- ・ 商店街
- ・ 港町(サンポート)

<第1ラウンド> 高松の魅力

■参加者の意見（40歳以上のグループA）

【自然・公園など】

- ・海が身近
- ・災害が少ない。
- ・高山航空公園
- ・温暖で住みやすい。

【子育て環境】

- ・子育てしやすい。
- ・教育水準が高い。
- ・公立の幼稚園がある。

【交通】

- ・公共交通との共存（P & Rの存在）
- ・空港と港（サンポート）が近くて便利。県外へも国外へも移動しやすい。

【商業施設】

- ・丸亀街商店街（グリーン）
- ・ショッピングモールが充実している。

【特産品】

- ・うどん県
- ・県産品

【その他】

- ・映画のロケ地が多い。
- ・瀬戸内国際芸術祭
- ・安全で安心なまち
- ・老後にすみやすい。
- ・人付き合いが良好
- ・町がきれい。
- ・医職充（医療、職業、充実）が確保しやすい。

■参加者の意見（40歳以上のグループB）

【自然・公園など】

- ・気候が温暖
- ・自然が豊か
- ・海が近い。
- ・災害が少ない。
- ・雨が少ない。
- ・山（地形）が変わっている。  
（例：おにぎり山 日本のエアーズロック）
- ・屋島からの景観（昼、夜）

【交通】

- ・四国内外とのアクセスが便利（駅・IC・港・空港がコンパクトにまとまっている。）
- ・自転車ですべて行ける。
- ・道路が整備されている。

【特産品】

- ・食べ物（野菜&魚）がおいしい。
- ・松盆栽が日本一

【その他】

- ・大学、高専がある。
- ・ほどよく都会（コンサート、美術館、映画館）
- ・温泉（仏生山、塩江）





### <第2ラウンド ～高松の魅力を高めるための方策～>

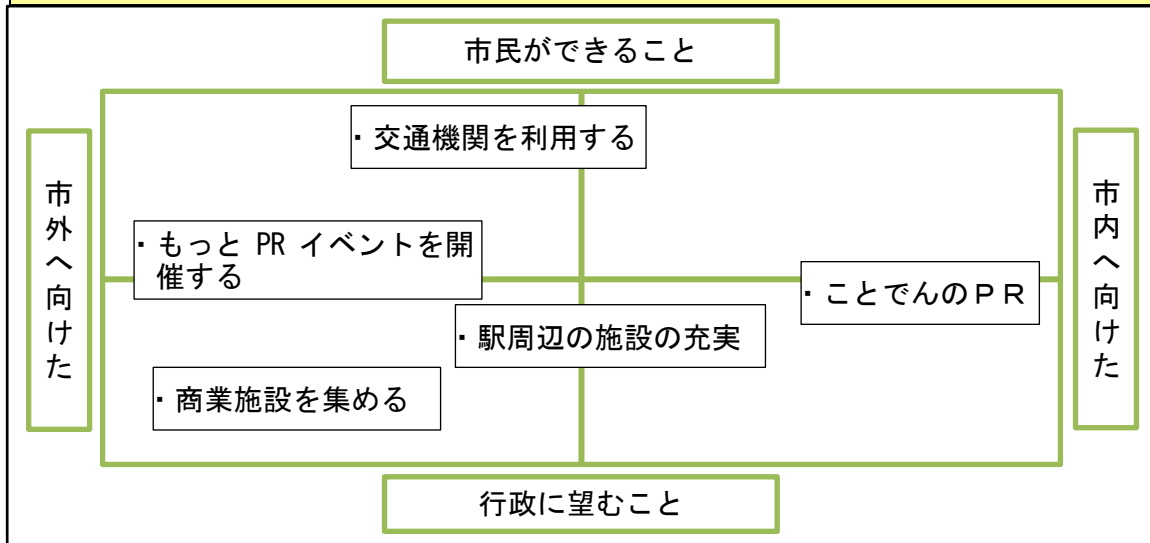
第1ラウンドで数多く挙げられた高松の魅力の中から、高松市にとって「特に重要な魅力」を各グループ2つ選択し、第2ラウンドでは、その魅力を高めるための具体的な方策や取り組みについて話し合いました。

なお、整理する際には「市民にできること」「行政に望むこと」という①方策の実施主体について、さらには、交流人口の増加や高松市のPRなど「市外へ向けた方策」と市民サービスの向上等「市内（高松市民）に対する方策」という②方策の対象者（ターゲット）の観点から整理しています。選択したテーマと各テーブルでの意見の結果は以下のとおりです。

グループ	選択した魅力
大学生のグループA	「会場までのアクセスが良い。」 「島が近くにたくさんある。」
大学生のグループB	「希少糖」 「PRできるキャラが多い。」
40歳未満のグループA	「地域活動への関心が高い。」 「災害が少ない。」
40歳未満のグループB	「海」 「まち」
40歳以上のグループA	「医職充（医療・職業の充実）が確保しやすい。」 「公共交通が充実している。」
40歳以上のグループB	「四国内外とのアクセスが便利（駅・IC・港・空港がコンパクトにまとまっている。）」 「都会と自然がコンパクトに調和している。」

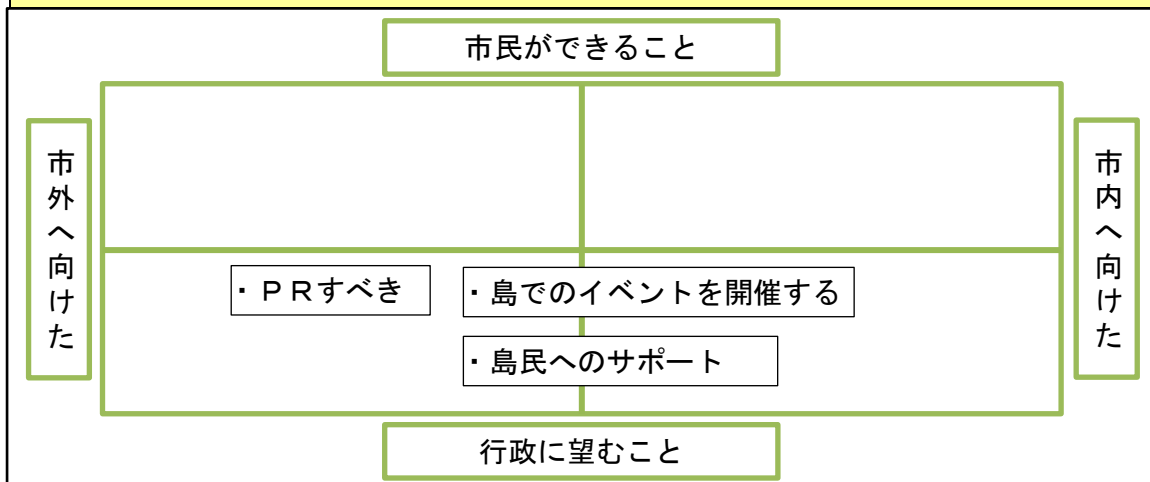
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力1：【会場までのアクセスが良い】（大学生のグループA）



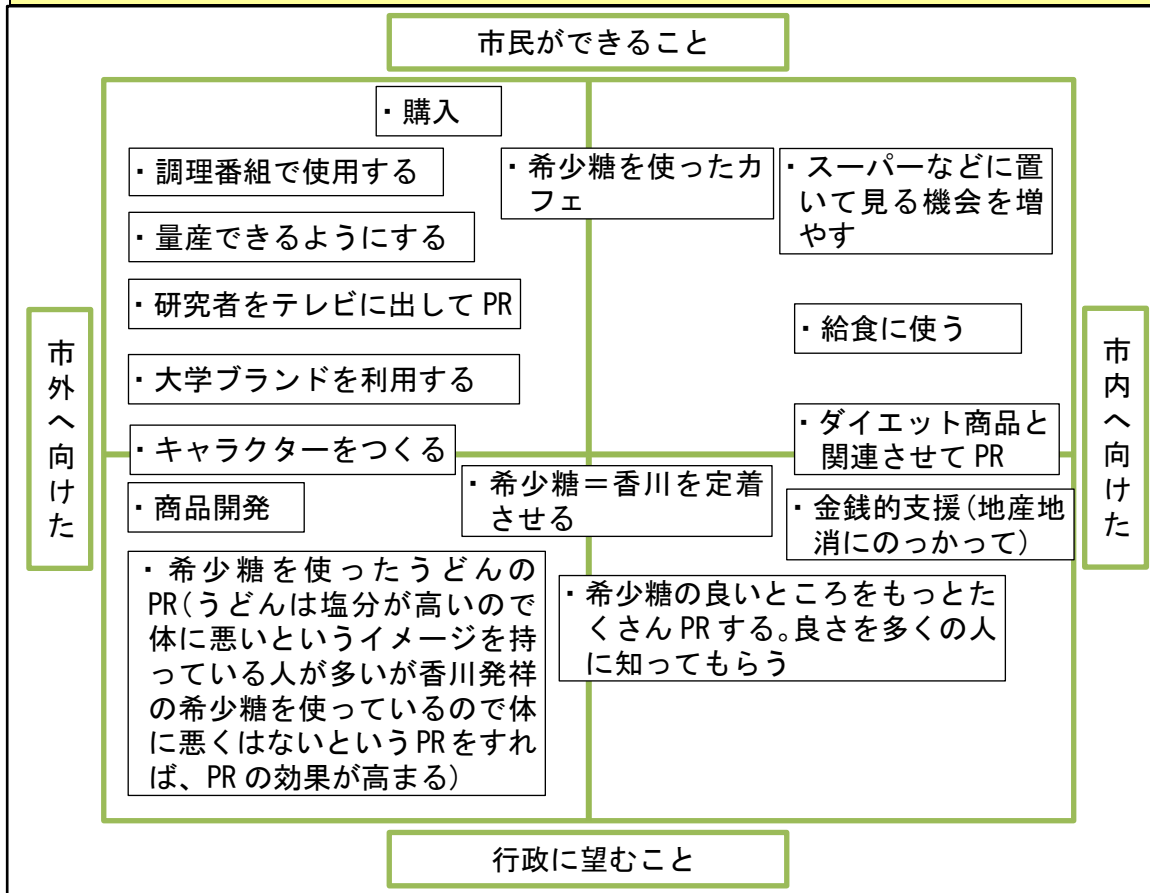
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力2：【島が近くにたくさんある】（大学生のグループA）



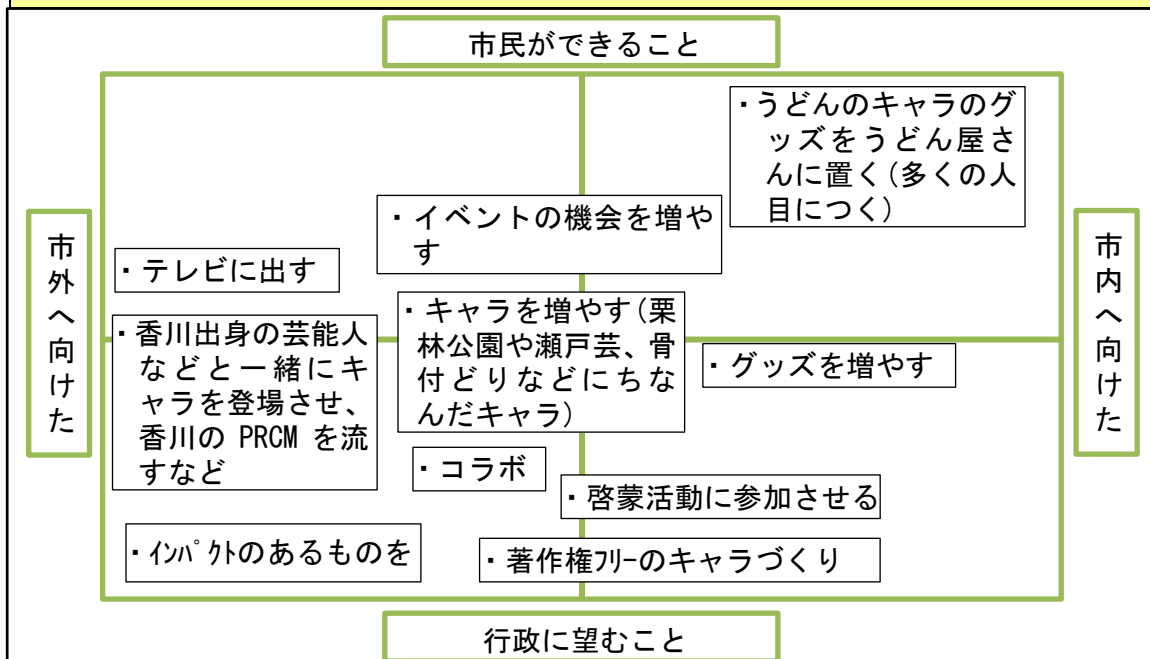
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力1：【希少糖】（大学生のグループB）



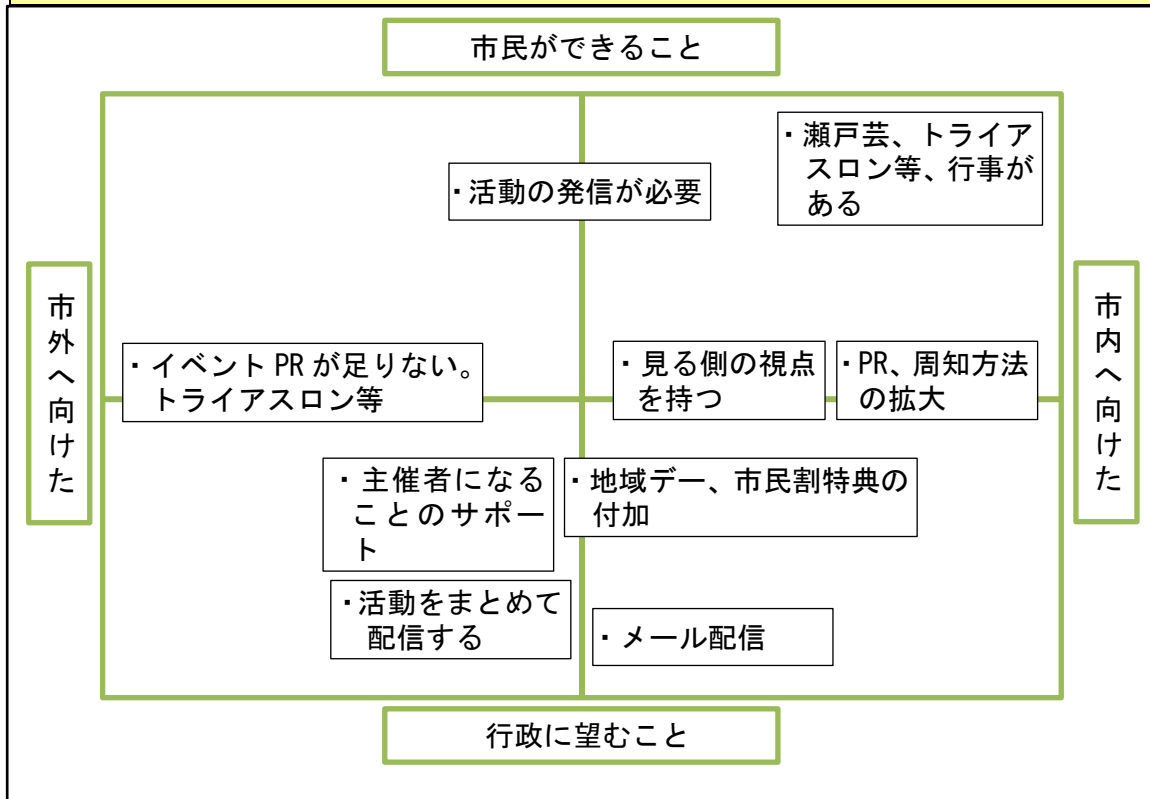
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力2：【PRできるキャラが多い】（大学生のグループB）



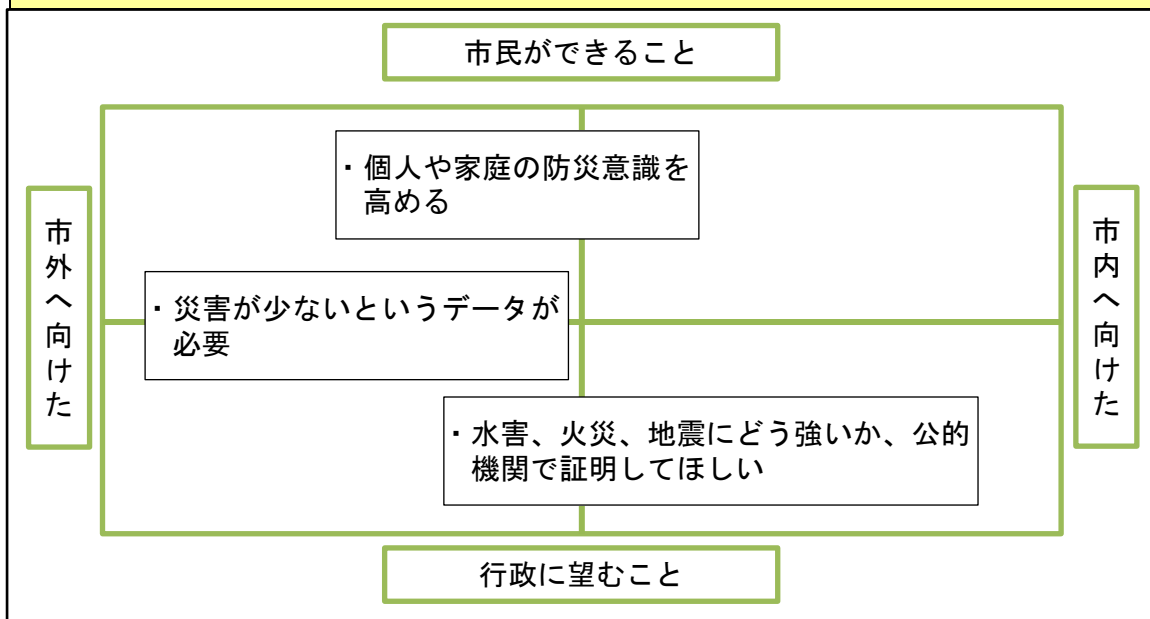
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力1：【地域活動への関心が高い】(40歳未満のグループA)



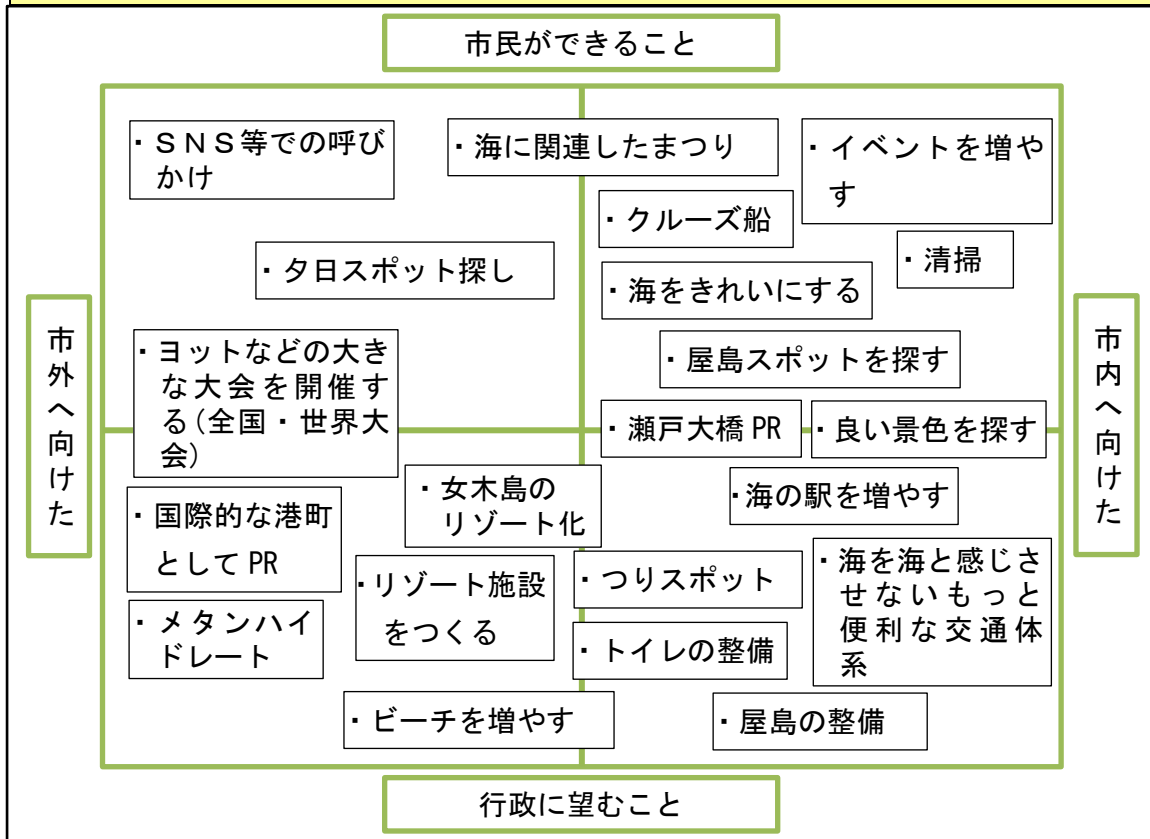
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力2：【災害が少ない】(40歳未満のグループA)



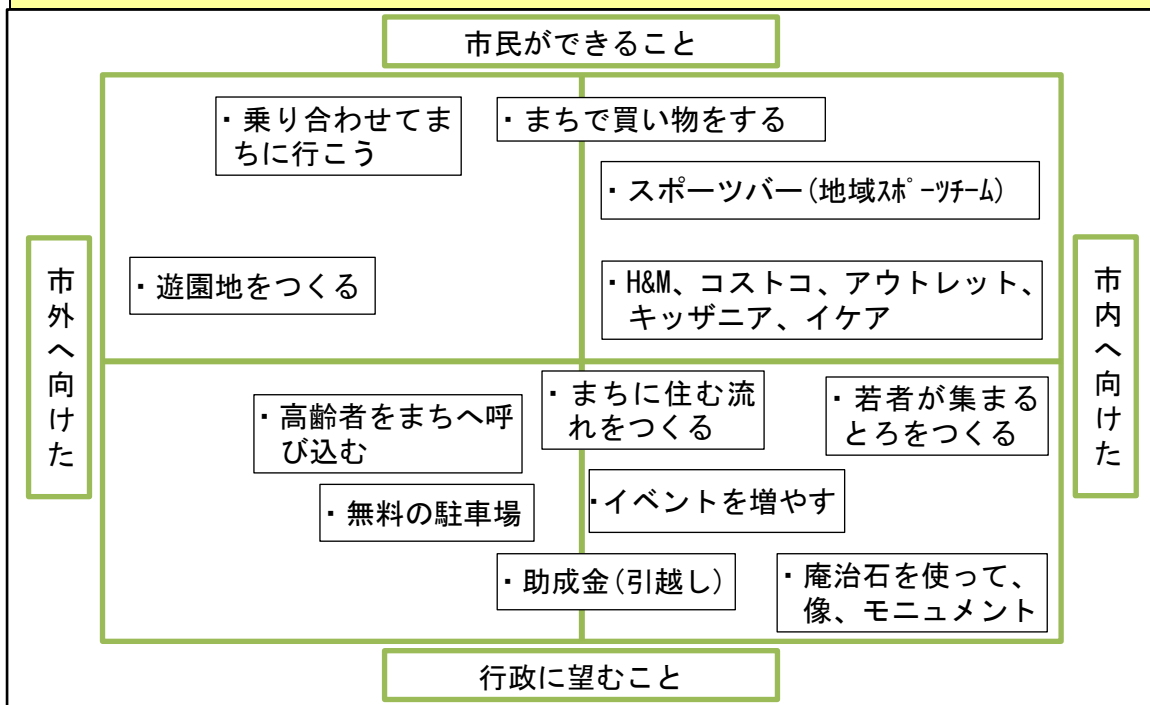
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力1：【海】(40歳未満のグループB)



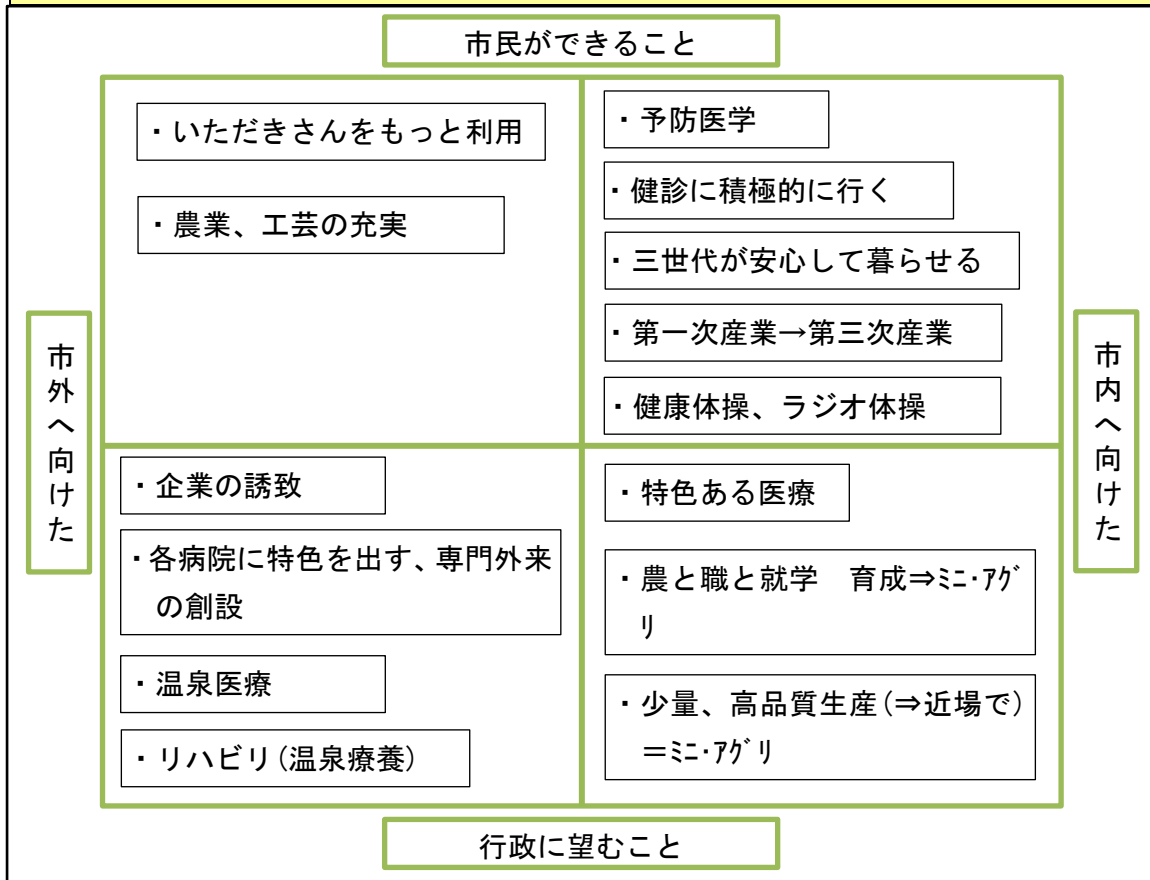
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力2：【まち】(40歳未満のグループB)



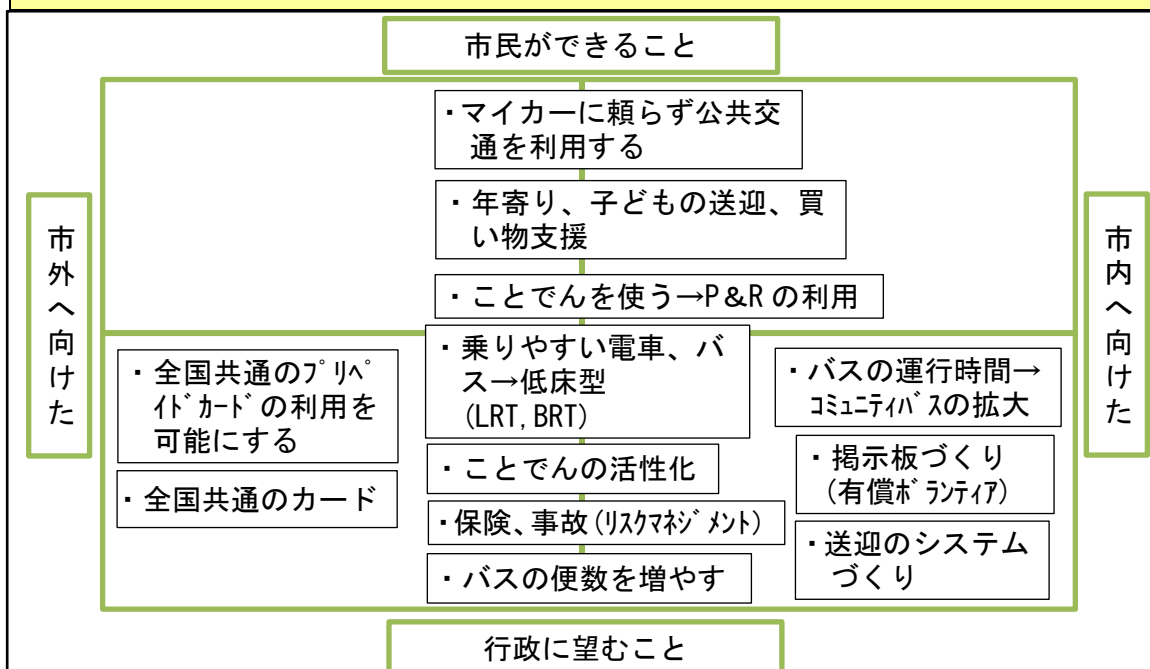
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力1：【医職充(医療・職業の充実)が確保しやすい】(40歳以上のグループA)



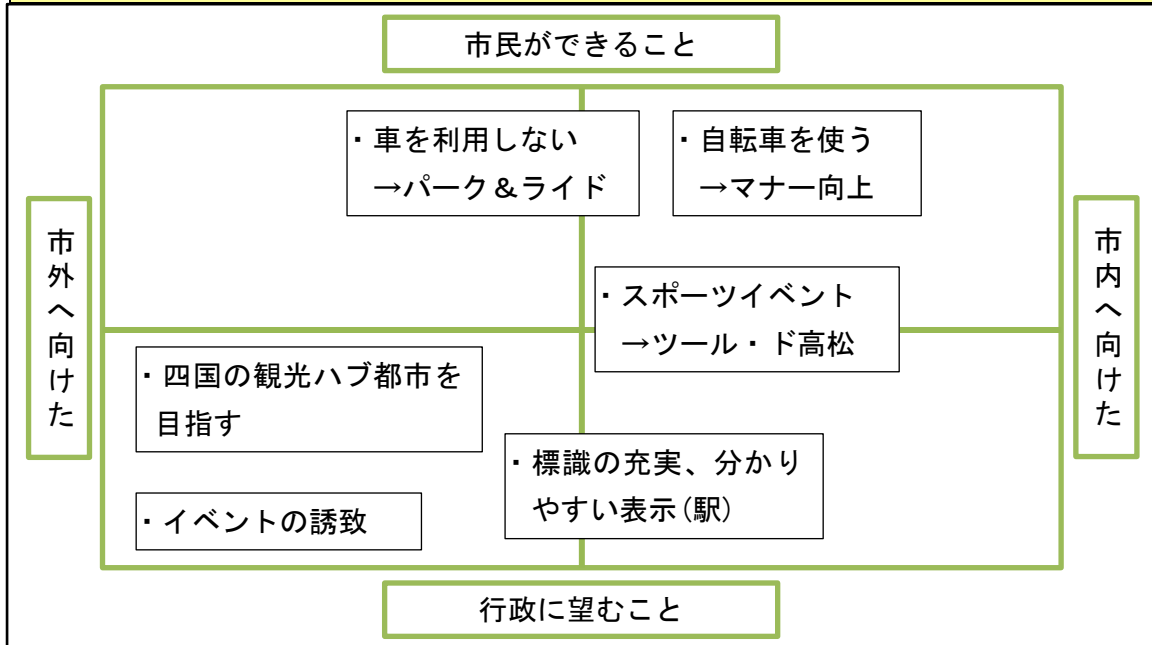
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力2：【公共交通が充実している】(40歳以上のグループA)



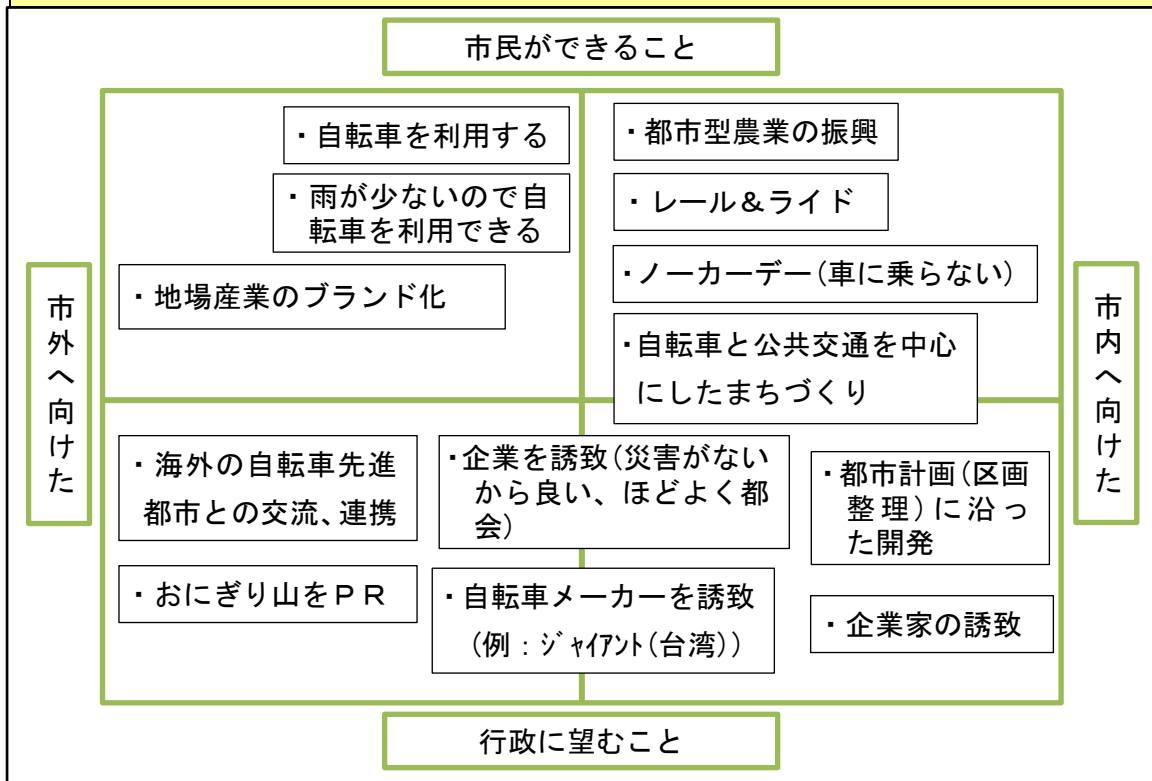
<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力1：【四国内外とのアクセスが便利（駅・IC・港・空港がコンパクトにまとまっている）】（40歳以上のグループB）



<第2ラウンド> 魅力を高めるための方策

選択した魅力2：【都会と自然がコンパクトに調和している】（40歳以上のグループB）



### <第3ラウンド ～高松市のまちづくりのキャッチコピー～>

第3ラウンドでは、これまでの全ての意見交換を踏まえて、高松市のまちづくりのキャッチコピーを考えました。

以下に各グループで出された意見を紹介していきます。

#### <第3ラウンド> 高松市のキャッチコピー

##### ■参加者の意見（大学生のグループA）

潮風が 人呼ぶ ふれあいの チャリンコ都市 高松

##### 【キーワード】

- |            |             |
|------------|-------------|
| ・ ツール・ド・高松 | ・ アクセス      |
| ・ チャリンコ    | ・ 便利        |
| ・ 自転車      | ・ コンパクト     |
| ・ 自然       | ・ 芸術        |
| ・ 青        | ・ 面白み       |
| ・ 海        | ・ ふれあい      |
| ・ 山        | ・ 調和        |
| ・ 潮風       | ・ 四国の玄関     |
| ・ 屋島       | ・ なんがでつきよんな |
| ・ 与一       |             |

##### ■参加者の意見（大学生のグループB）

豊かな自然と食文化 みんな笑顔で活気あふれる 高松市

うどんもおいしい 空気もおいしい 笑顔があふれる 高松市

##### 【キーワード】

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| ・ 自然や海が美しい(栗林公園や瀬戸内海がある) | ・ 食                     |
| ・ 海                      | ・ おいしい                  |
| ・ 自然                     | ・ 活気あふれる                |
| ・ 自然と都市の調和               | ・ 独自                    |
| ・ 市民が笑顔                  | ・ どこでも行ける               |
| ・ 穏やか                    | ・ 豊か                    |
| ・ 安全な                    | ・ 美しい自然と食文化で、みんなが笑顔の高松市 |
| ・ 調和                     | ・ 豊かな自然と活気あふれる都市の調和     |



<第3ラウンド> 高松市のキャッチコピー

■参加者の意見（40歳未満のグループA）

人にやさしい ハイブリッドな 自転車のまち TAKAMATSU

【キーワード】

- |               |                          |
|---------------|--------------------------|
| ・地中海のような温暖な気候 | ・自転車のまち                  |
| ・晴天           | ・子育てにやさしい                |
| ・里山           | ・ハイブリッド<br>(都会的側面と田舎の側面) |
| ・緑豊かな         | ・挑戦を応援する                 |
| ・人にやさしい       | ・シニアが元気な                 |
| ・地域を愛する       | ・コンパクト                   |
| ・温厚な人柄        | ・うどんの都                   |
| ・安心して暮らせる     |                          |

■参加者の意見（40歳未満のグループB）

こんまい(小さい・来なさい) 色鮮やかで 優しい まち

【キーワード】

- |       |            |
|-------|------------|
| ・彩り   | ・こんまい(小さい) |
| ・自然   | ・街         |
| ・色鮮やか | ・自転車       |
| ・優しい  | ・買い物       |
| ・海    | ・楽しい       |
| ・夕日   | ・生活        |
| ・島巡り  | ・近い        |
| ・平和   | ・うどん       |
| ・安全   | ・美味しい      |
| ・安心   | ・方言を入れる    |
| ・心地よい | ・ゆっくりしまい   |
| ・快適   | ・きまい(来なさい) |
| ・教育   |            |

<第3ラウンド> 高松市のキャッチコピー

■参加者の意見（40歳以上のグループA）

あらゆる世代 ふれあい 思いやり 元気なまち 瀬戸の都

【キーワード】

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| ・豊かな自然          | ・笑顔                    |
| ・海、山、島          | ・おもてなしの心               |
| ・海、山、平野         | ・安全、安心                 |
| ・瀬戸の都           | ・ふれあい                  |
| ・おだやかな海         | ・思いやり                  |
| ・瀬戸の夕なぎ         | ・ふるさと                  |
| ・水もきらめく         | ・交通マナー                 |
| ・島国             | ・メディカル・スパ・リゾート・ツーリズム   |
| ・うつくしい島々        | ・ミニ・クルーズ・ツーリズム         |
| ・芸術のまち          | ・メディカル・スパ・リゾート in タカマツ |
| ・芸術の美しい瀬戸       | ・インバウンド・ツーリズム          |
| ・子供・年寄りが元気になるまち | ・ミニ・アグリカルチャー           |
| ・あらゆる世代         | ・三世代型ツーリズム             |
| ・地域コミュニティの活用    | ・シニア・アウトバウンド・ツーリズム     |
| ・元気なまち          |                        |
| ・うどん            |                        |
| ・リゾート           |                        |
| ・オリーブ           |                        |

■参加者の意見（40歳以上のグループB）

おいでまい 住んでんまい うまげな高松

自然と文化の織りなす 田園文化都市

その他のアイデア：キャラクターをつくる <まいまい、けんけん>

【キーワード】

- |             |               |
|-------------|---------------|
| ・潮かおる、ダシかおる | ・のんびり         |
| ・青い空と海の都    | ・らくらくわくわく     |
| ・四国の中核都市    | ・のんき、げんき      |
| ・四国の交通結節都市  | ・ちゃぷちゃぷせとないかい |
| ・コンパクトシティ   |               |

#### (4) 参加者の意見のまとめ

##### 高松の魅力を生かしたまちづくり

各グループの意見の概要及び特徴は以下のとおりです。

##### <各世代共通>

- ・ いずれの世代においても、自然環境の豊かさやうどんなどの観光資源、コンパクトなまちであることなどを高松の魅力として感じていることが分かりました。
- ・ 都会と自然が適度に調和し、災害の少ない住みやすいまちであることも、高松の魅力として感じていることも分かりました。

### Ⅲ 総括

本市の今後のまちづくりの指針となる「第6次高松市総合計画（仮称）」の策定に当たり、大学生・40歳未満・40歳以上の各世代の市民に御参加いただき、ラウンドテーブルという形式を通じて、様々な観点から意見を出していただきました。

いずれの世代においても、まちづくりを進める上での共通の話題として、「地域コミュニティの充実」についての意見が多く出され、個人による地域活動への参画状況の違いはありますが、自分たちが生活している地域活動に対する関心が高いことが分かりました。地域コミュニティ活動への参加促進をすべきとの意見はどの世代も共通でしたが、年齢が上がるにつれ、地域コミュニティ協議会の活動をどのようにして市民に広く知ってもらうか、これからの地域のリーダーをどう育成するかという、「今後の地域コミュニティのあり方」に関する意見が多くなる傾向にありました。

個別のテーマにおいて、例えば「子育て」に関しては、保育施設を始めとした子どもを預ける環境や雇用環境の更なる充実を求める声もありましたが、現状の「子育て施策」に対しては肯定的な意見も聞かれました。

若者定住に関しては、大学生自身は中心市街地の活性化や自動車を中心とした交通マナーの向上等、都市全体の魅力向上に関する幅広いテーマの議論であったのに対し、それ以外の世代では、雇用環境の充実に関する議論が中心となりました。

安全安心なまちづくりに関しては、地域コミュニティでの見守り活動と交通安全について多くの意見が出されました。自転車の利用に関しても、多くの意見が出され、自転車の利用環境の良さを評価しつつも、自動車と同様、自転車に関しても、マナー向上を求める意見が多く、ソフト面の課題が多くあることが分かりました。

さらに、高松市の魅力としては、風光明媚な土地であり、豊富な観光資源がある一方で、居住地としてもコンパクトで便利なまちであることが分かりました。

今回のラウンドテーブルでは、それぞれのグループ内で活発な意見交換が行われ、各世代共通の意見や世代によって異なる意見の傾向が分かり、非常に有意義な取組となりました。

今回、市民の皆様からいただいた御意見は、今後、策定する「第6次高松市総合計画（仮称）」の施策展開に反映させるとともに、今後の市政運営、事業内容の検討にも活用してまいりたいと存じます。

◆ 参考資料

<テーマ一覧>

大テーマ	小テーマ	具体的なテーマ	大学生	40歳未満	40歳以上
人口減少の時代において持続可能なまちを維持するために	第1回				
	子育てしやすいまちづくり	子育て環境について高松市の良いところ		○	○
		高松市の子育て環境をより良くするために必要な条件		○	○
		若者定住の視点を含めた高松市の子育て環境をより良くする方策		○	○
	若者が住みたいまちづくり	若者が感じる高松市の良いところ	○		
		若者が住み続けるために必要な条件	○		
		子育て環境も含めた若者が住みたいまちにするための方策	○		
	第2回				
	住み慣れた地域で安全に安心して暮らせるまちづくり	安全に安心して暮らせる理想のまち		○	○
		安全、安心な暮らしに当たっての高松の課題・問題点		○	○
		交通マナー向上のための方策		○	
		地域におけるリーダー養成のための方策			○
	高松の魅力を高めるために	第3回			
高松の魅力を生かしたまちづくり		高松の魅力	○	○	○
		魅力を高めるための方策	○	○	○
	キャッチコピー	○	○	○	